Japan Geoscience Union Meeting 2010
(May 23-28 2010 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2009. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

HQR011-P06 会場:コンベンションホール 時間: 5月27日17:15-18:45

完新世における三重県雲出川デルタの発達過程

Holocene Evolution of the Kumozu River Delta, Mie Prefecture, Central Japan

船引 彩子[1*], 春山 成子[2]

Ayako Funabiki[1*], Shigeko Haruyama[2]

[1]産業技術総合研究所 地質情報研究部門, [2]三重大学大学院生物資源学研究科

[1]Geological Survey of Japan, AIST, [2]Mie University

三重県雲出川デルタ平野は河川―波浪卓越型のデルタである．本研究では，2本のボーリングコアKM01およびKM02より，雲出川デルタにおける沖積層の詳細な発達史を検討した．両コアの堆積相は下位より最終氷期最盛期後の河成堆積物，エスチュアリー堆積物，プロデルタ堆積物，デルタフロント堆積物と現世の河成堆積物からなる．最大海氾濫面はエスチュアリー，デルタ性堆積物境界に位置し，その年代は約7 cal kaである．
また本研究と既往研究に基づき完新世を通じた雲出川デルタの前進モデルが得られた．9-7cal kaの間に最終氷期最盛期に形成された開析谷の中ではエスチュアリー性の堆積物が上方に堆重し，その上を7cal ka以前から前進を始めた雲出川デルタは，相対的海水準高頂期を迎える6.5 cal ka頃までに開析谷をほぼ埋積して伊勢湾に直接面するようになった．その後デルタは波浪の影響を受けるようになり,南北に浜堤列を形成しながら舌状のデルタを前進させた.

キーワード:雲出川デルタ,完新世,デルタフロント,浜堤列,最大海氾濫面

Keywords: Kumozu River Delta, Holocene, delta front, beach ridges, maximum flooding surface